

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

—

2. 学校概要

学校名 福山市立内海小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 722 - 2641

広島県福山市内海町 73 番地

E-mail : shou-utsumi@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp

Website : <http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp>

児童生徒数：男子 22 名 女子 22 名 合計 44 名

児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

3. 実施活動(下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。)

地球規模の問題に対する国連システムの理解

持続発展教育 (ESD) (国際理解 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動
生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 その他 ()

そのほか ()

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

<低学年>

体験的な学習を通して、身近な自然を楽しみ、自然のよさに気付く。

1年：うみとなかよし（生活科）

- ・天草からとろてんができることを知る。（とろてんづくり）
- ・内海の海に住む魚や海草などに触れることで内海の自然に関心を持つ。

2年：生きものだいすき（生活科）

- ・昆虫や小動物、植物の飼育・栽培活動を通して、生物に親しみを持てかかわり、それぞれが命を持っていることに気付く。

<中学年>

身近な自然や環境、文化を守るための方法や取組みについて考える。

3年：内海の海はじまんの海か（総合的な学習の時間）

- ・学校の近くの海を学習の場として地域の人々の思いや環境保全の取組みについて考える。
- ・内海の昔のくらしや文化について調べ、地域の人々の願いを知る。

4年：自分たちのくらしをみつめよう

～ 動き出そう内海 530 めざし隊 ～ （総合的な学習の時間）

<高学年>

身近な生活や環境から解決すべき課題について自分たちにできることを考える。

5・6年：環境とエネルギーについて考えよう（総合的な学習の時間）

- ・気象観測データと風力太陽光発電の発電量の関係を分析しエネルギー・環境問題について考え、自分たちの生活の改善点を探る。
- ・身近な生活や環境から解決すべき課題について調べる活動を通して、環境保持・保全の取組みを知り、自分たちにできることを考える。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）

今年度の活動結果について（下記から選択して下さい。）

- 大変効果的な活動ができ、大変満足。
- 効果的な活動ができ、満足。
- 効果的な活動ができず、やや不満が残る。

以下につきましては、該当する取組を実施した場合のみ
記載をお願いします。

- 実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫。
 - ・児童が生活している地域を学習の場とし、身近な地域人材を活用しながら探究活動をすすめる。
 - ・児童が学習したことを発表する場を設定し、相手意識・目的意識を持って表現する力を高める。(外部からの評価の有効活用)

- 実施テーマに関連した研究旅行の実施。

- 他国の学校との交流や相互協力の実施。(交流した国、学校名の記載もお願いします。特に相手校が ASP ネットワークに参加している場合は、その旨も記載願います。)

- 国連やユネスコが取り組む国際的な記念日、国際年、国際的な10年を記念する取組の実施。(国際母語の日、国際天文年、識字の10年など)
 - ・国連 ESD の 10 年